

(様式1)

2026年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 022	提案機関名 湘南農業協同組合
要望問題名 イチゴの葉全刈り育苗方法の確立について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 当JA管内は、施設イチゴ栽培生産者が多く、県内でも有数の産地である。昨年から、イチゴの葉全刈り育苗法が話題となり、試験的に実施する生産者が現れた。全刈り育苗とは育苗中のイチゴの葉を全て刈り、葉柄を残して育苗する方法である。葉が無いと蒸散量が少なく灌水量や灌水回数を減らせ、炭疽病等葉から感染する病気に罹りにくくなることが期待されている。 しかし、新しい技術であり、全刈りによる花芽分化・品質・収量に与える影響や、定植時期の何日前に全刈りを実施すれば良いか等不明な点が多い。そこで、全刈り育苗技術の確立について検討願いたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) Ⅱ-2(1) 主要作物の高品質・安定生産技術の開発 イ イチゴ‘かなこまち’の安定生産技術・環境制御技術の開発		
対応の内容等	‘かなこまち’を用いて、育苗期間中の全葉摘葉（全刈り）処理による栽培試験を令和7年度から実施しています。子苗の花芽分化や定植後の生育、収量及び品質に及ぼす影響を明らかにするとともに、品種間差や適切な処理時期等を令和8年度以降に試験を実施します。		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			